てつがくカフェ

＝ 第93回 ＝

体験を言葉にするということ
―『戦争語彙集』から考える

これまで私たちは、ウクライナの詩人オスタップ・スリヴィンスキー氏の著作『戦争語彙集』を題材に、読書会やトークイベントを通じて、戦争がもたらす言葉の変容や、その裏にある人々の体験について考えてきました。戦争や災厄に直面したとき、私たちはその現実にどう向き合い、言葉でどうとらえてきたのかを参加者とともに探ってきました。

今回のてつがくカフェでは、「体験を言葉にするということ」をテーマに取り上げます。非日常の体験が言葉をどう変え、どう形作るのか。『戦争語彙集』に描かれた人々の体験や、私たちのこれまでの経験を手がかりに考えてみませんか。

戦争にまつわる体験や言葉に関心があれば、これまで行ってきたイベントに参加していない方や、これから『戦争語彙集』を読もうとしている方も歓迎です。

てつがくカフェでは、他者の言葉にじっくりと耳を傾けながら物事を深く問い直し、自身の思考を見つめ直すことができます。粘り強い対話を通して、体験と言葉、そして私たちの日常と非日常、未来のつながりを見つめ直すひとときにしたいと思います。どうぞお気軽にご参加ください。

93回 2025年 **2月16日(日)** 14:00-16:30

せんだいメディアテーク 7f スタジオ a

申込不要・参加無料・直接会場へ

てつがくカフェとは？

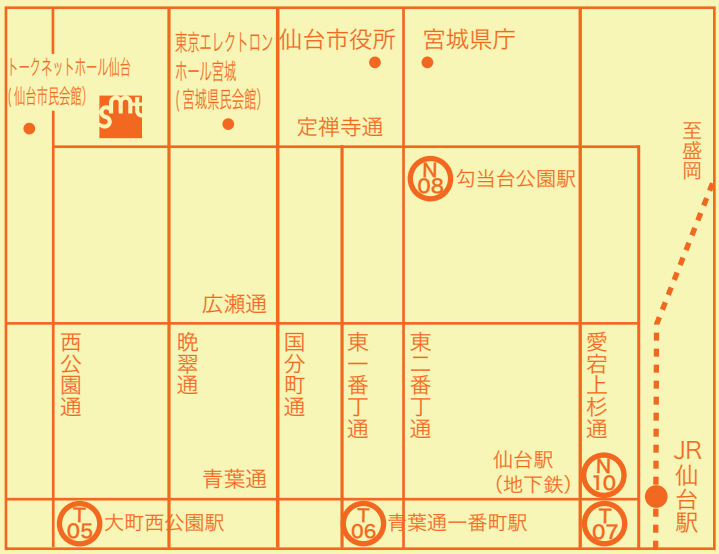
「てつがくカフェ」は、わたしたちが普段、当たり前だと思っている事柄から、いったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いとして投げかけます。そして、ゆっくりお茶を飲みながら対話し、自分の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験するものです。

https://www.smt.jp/projects/cafephilo/

「てつがくカフェ」で行われるさまざまなイベントのスケジュールやこれまで開催されたイベントのレポートを閲覧できます。

主催：てつがくカフェ@せんだい／せんだいメディアテーク
お問い合わせ：shohyocafe@gmail.com（みかみ）
助成：一般財団法人　地域創造

せんだいメディアテーク
仙台市青葉区春日町 2-1
022-713-4483



メディアスタディーズ
「てつがくカフェ」は、せんだいメディアテークの事業「メディアスタディーズ」の一環として実施されています。
https://www.smt.jp/projects/mstudies/

※この用紙はリサイクルできます

『戦争語彙集』に関連したイベントの歩み

①『戦争語彙集』読書会（2024 年 1 月 8 日）
『戦争語彙集』を題材に、戦争下での言葉の変容を参加者同士で対話しながら考える読書会を開催しました。それぞれが印象に残った言葉を共有し、感じたことを深める場となりました。

②トークイベント「体験を言葉にするということ」（2024 年 1 月 21 日）
詩人オスタップ・スリヴィンスキー氏、日本文学研究者ロバート キャンベル氏、せんだいメディアテーク館長の鷲田清一氏が登壇。本書の朗読とともに、その背景や制作意図を語り、戦争下の人々の言葉の重みと役割について共有しました。

③てつがくカフェ「戦争語彙集から考える」（2024 年 2 月 25 日）
1 月 21 日のイベントを受け、さらなる対話の場として開催。スリヴィンスキー氏の「今必要なのは武器」という言葉を起点に、戦争の現実と日常のつながりについて参加者同士で対話しました。

④『戦争語彙集』読書会（2024 年 8 月 24 日）
再び『戦争語彙集』を読み、本書の後半に収録されているロバート キャンベル氏の文章「戦争のなかの言葉への旅」を手がかりに、非日常の中で人々が交わした言葉について考察しました。

⑤『戦争語彙集』読書会（2024 年 11 月 24 日）
④に引き続き「戦争のなかの言葉への旅」の後半部分を読み解きました。戦争と暮らしの只中で紡がれた言葉と、人々との関わりについてさらに深く対話を展開しました。

⑥てつがくカフェ plus「『日常と非日常』について考える」（2025 年 1 月 11 日）
この回では『戦争語彙集』にとどまらず、日常と非日常の境界や共通点について自由に対話しました。参加者それぞれの視点で感じたことを共有しました。

これらの対話の積み重ねを踏まえ、今回のてつがくカフェでは、さらに深い議論の場を目指します。